

事例項目	01 障害の特性理解・実態把握	05 学校体制づくりのサポート
	06 ケース会議・研究協力特別支援教育に係る情報発信・	
概要	聴覚障害の理解とロジャー（デジタル補聴援助システム）の正しい使い方の相談	
事例提供校	高校： 中部地区 全日制	特支： 静岡聴覚特別支援学校

事例の内容	高校からのリクエスト	
	<ul style="list-style-type: none"> ・当該生徒及び保護者から、「先生の話がよく聞き取れない。ペア・グループワーク時に級友の声がよく聞き取れない」との訴えがありました。また、「コロナの感染状況が落ち着いてきたので、授業中、先生は口元が見えるマスクを使用してほしい」との要望もありました。 ・学校としては、授業中は教員がロジャーを使用し、本人にも聞こえていると思っていました。どう対応したらよいでしょうか。 	
	特別支援学校からの支援・助言（センター的機能の活用）	
	<ul style="list-style-type: none"> ・高校訪問、当該生徒の授業観察 ・授業担当者等への講義（聴覚障害者の聞こえ方、人工内耳の仕組み、ロジャーの使い方指導） ・大学入学共通テスト出願・受験時、配慮願申請等の情報提供 	

センター的機能を活用した感想	高校 担当者のコメント	
	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障害の聞こえ方の体験や人工内耳の仕組みを理解することをおして、当該生徒への理解が深まり、より深く寄り添うことができるようになりました。 ・配慮すべきことやその方法を直接見聞きすることができ、授業等ですぐ実践し、本人も教員も効果を実感でき、センター的機能の活用が役立ったと誰もが感じることができました。 ・口元が見えるマスク「顔が見えマスク」を紹介されました。さっそく学校で購入し当該生徒の授業担当教員は全員着用して授業をやるようにしました。 ・当該生徒は「私の主張」で自身の障害を告白し、全校生徒の前でスピーチした。この様子を生徒の母校であり、今回の支援の依頼先でもある静岡聴覚特別支援学校に zoom で配信し、交流を図ることができました。 	
	特別支援学校 担当者のコメント	
	<ul style="list-style-type: none"> ・中学部から送り出した生徒の支援が引き継がれ、当該生徒の成長ぶりも見られたことなど、有意義な機会となった。本人も出身校の教員からサポートが受けられ安堵した様子でした。。 ・人工内耳による大学入学共通テスト（英リスニング）の受験可否について、今後も情報収集して、高校と共有していくこととしました。 	

まとめ	
<p>専門的な助言を受け、聞こえにくさが改善したという成果を生徒も教員も感じる事ができた好事例です。今回の支援を機会に、両校の関係が継続し、生徒に対する支援が継続していることもよいです。</p>	

※具体的な支援内容については、当該校にお問い合わせください。